

# 裏磐梯火口壁コース

窪田 道男

■山行年月日:平成 30 年 3 月 3 日～4 日

■メンバー:窪田道男

■コースタイム:裏磐梯スキー場駐車場  
7:00 ～天狗岩基部 8:00～火口壁上部  
11:00 ～磐梯山頂 12:40～沼の平  
BC15:00

60 周年記念として磐梯山の集中山行が計画され、以前から考えていた火口壁から山頂、火口壁スキー滑降の周回コースを提案したが、実際は単独となってしまった。

天気予報では久々の好天ということで、未明の空も青々としている。会津を午前 5 時 30 分に出発し、裏磐梯スキー場駐車場には 7 時前に到着。早々に準備して出発。晴天の時裏磐梯のここからの眺めは、空が大きく新雪が光に輝いていて心が解放される感じである。ゲレンデは雪上車がゲレンデ整備真最中。その整備されたゲレンデはスキーシールが良く効いて登り易い。昨日の吹雪によるラッセル無しで第二リフト上部まで 30 分で到着。快晴の中銅沼経由で、天狗岩基部までもさほどのラッセルなく快調に 1 時間ほどで到着した。パノラマの火口壁は、全体的に雪の付き方が少なく、予定の正面壁上部も岩稜が露出している部分が多い。その点、火口壁右側は上部まで雪が繋がっているの、コースを変更し、ルンゼ状で雪庇の張り出しの少なそうなコースにした。火口壁は時期や年に

よって雪の着き方や風の具合で雪質が随分と異なっているので、ルートは柔軟に選択。

少し休んで、ウインドクラストで雪面が硬いのでここでスキーを担ぎ、アイゼン、ピッケルでの登高。ところどころ雪崩のデブリで歩きにくい、まださほど陽が当たっていないので氷も締まっている。適度な傾斜の中、快適に高度を上げる。振り返ると、昨日の降雪で下部雪原が綺麗に真っ白になっている。そのなかに自分のトレースだけがすっきりと付いていて気持ちがいい。かなり上部の岩稜近くで、コールが聞こえた。多分、天狗岩登攀コースのケンちゃんパーティーかと思いコールを返したが聞こえたかな？

火口壁の雪庇部分まで 10m あたりの急傾斜地点が一番嫌らしく、急な泥壁に氷があまりついておらず、ふわふわの雪壁でだましまし登り上がる。あと 4m 程のところ、ハングした雪庇と下部が空洞になった部分で行き詰ってしまった。何とか荷物をデポし、空荷で雪庇を崩し、下から出てきた細い木の枝にたよって強引に頂陵に出る。荷物をロープで引き上げようとしても引っ掛かって引き上げられないので、仕方なしにもう一度下降してロープ頼りで登りあがる。そこで大休止、11 時になっていた。風が強く、陽の光でクラストした雪面がキラキラとまぶしい。弘法清水小屋あたりまでスキーで来たが、そこからアイゼンに履

き替え磐梯山頂へ。山頂、午後 12 時 40 分。東尾根方面に少し下り、沼の平の山岳会の BC の見えるところで休憩、大滑降の準備をする。

ところが上部のスキー滑降初めのところがクラストしてカリカリ状態。泊りの重荷だったため、えいやっとターンしたとたんバランスを崩し大転倒。もんどりうって転がり、3 回転ほどして頭を下にして止まった。ここ最近、こんな大転倒したこともなくしばらくぼーぜん。完全に骨折かと恐る恐る立ち上がろうとすると、左足のふくらはぎがビクンと痛い。はずれたスキーが流れ止めで跳ね返り、左足のふくらはぎを直撃したらしい。ストック、サングラス、ピッケルはあちこちにバラバラ散乱した模様。ふくらはぎ以外は問題なさそうなので、足を引きずりながら散乱した荷物を回収。いろいろバラバラに散乱していたがすべて回収できた。なんとかスキーを装着し、スキーで横滑り、斜滑降、キックターンでそろそろと降りる。途中、東尾根下部で登ってくる伸也先生、幹衛さんと合流した。自分はやわやわ沼の平 BC のテント目指して下降し、何とか BC 着。痛めたふくらはぎはテーピングで応急処置した。

BC は、テント 3 張り、一般ルートの本隊に天狗岩登攀のケンちゃん、堀江さんも合流し、にぎやかな 60 周年の宴が開始。尚子先生特製の鍋やおかずと豊富なアルコールで夜は更けていった。

4 日は、パーティごとに順次出発。天気快晴のもと、私は最後に沼の平経由、裏磐梯一般ルートをゆっくり下る。火口

壁一般ルートは日陰なので雪も多く柔らかいので、アイゼンでゆっくり降り、ふくらはぎへの衝撃は何とか緩和された。順調に急斜面を下り裏磐梯スキー場まで戻って完了。後半は予定消化できなかったが、山で 1 泊するのは楽しい。

次の日、左ふくらはぎは 1.5 倍の太さに腫れあがり、腫れが引いた後も数カ月のリハビリが必要な程であった。ただ好きなようにルート選択もできるので良かった半面、事故に対しては自己責任となりより慎重な行動が求められる。とは判っていてもちょっとした油断がでてしまう。気を付けよう。